

IMV CORPORATION

2008年9月期
中間決算説明資料

2008年5月30日
2008年6月3日



中間決算概要と主要アクション



中間決算概要

- 売上高は前年同期比22.0%増収の3,325百万円、受注高も前年同期比21.8%増収の3,164百万円となり、いずれも過去最高の実績となりました。
- 振動シミュレーションシステムにおける想定を超える急激な材料費の上昇と、技術的難易度の高い特注大型試験装置において追加材料費が発生したことにより売上原価が増加したことや、研究開発費の増加等により経常利益は前年同期比45.1%減益の175百万円となりました。
- スケジューリング(税務上の損金算入時期の特定)が困難な繰延税金資産70百万円を当中間期に取り崩したことから、中間純利益は前年同期比58.2%減益の83百万円となりました。

主要アクション

- チャンバー(恒温恒湿槽)の内製化を強化するために環境試験機事業部を設置
- 新技術・新事業の開発を推進する技術企画部を設置
- 名古屋テストラボへの試験設備の早期導入と営業活動の強化
- エスペックテストセンター株式会社と共同で試験の受託や技術セミナーを開催する業務提携契約を締結
- 大阪テストラボにてISO/IEC17025に準拠したIECQ独立試験所の認定を取得
- 海外向けの販売強化により、ロシア向け好調
- 経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行するために、50万株の自己株式の取得を実施

決算概要(連結)



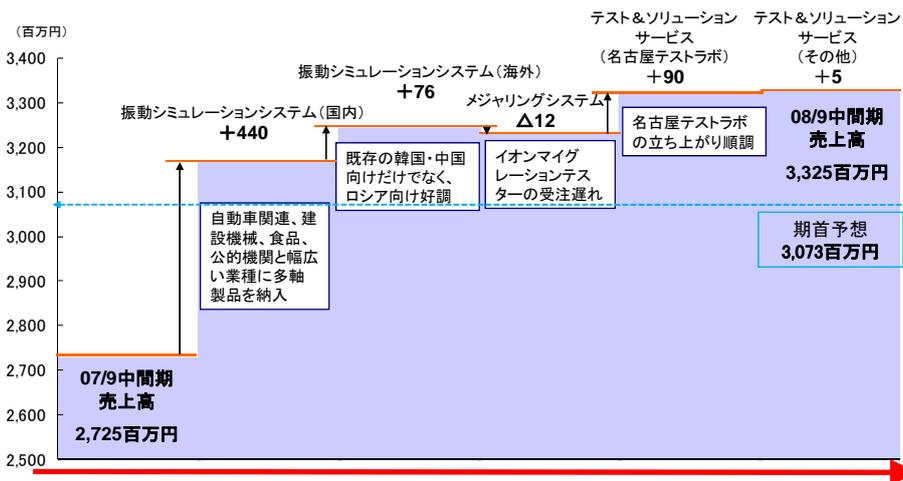
(単位:百万円)

	08/9中間期 実績	07/9中間期 実績	増減額	増減率	08/9中間期 期首予想	増減率
売上高	3,325	2,725	+599	+22.0%	3,073	+8.2%
営業利益 (営業利益率)	164 (4.9%)	246 (9.1%)	△82	△33.5%	282 (9.2%)	△41.9%
経常利益 (経常利益率)	175 (5.3%)	319 (11.7%)	△144	△45.1%	292 (9.5%)	△39.8%
中間純利益 (中間純利益率)	83 (2.5%)	199 (7.3%)	△116	△58.2%	177 (5.8%)	△53.1%
	08/9中間期 実績	07/9中間期 実績	増減額	増減率	概要	
設備投資額	154	391	△236	△60.5%	主に名古屋テストラボ向け試験装置です。	
減価償却費	118	128	△10	△7.8%	主にソフトウェア製作費償却の減少です。	
研究開発費	135	82	+53	+64.6%	振動シミュレーションシステム関連:89百万円 メジャリングシステム関連:46百万円	
従業員数※	216名	199名	+17名	-	当中間期(08/10~08/3)の増加は3名です。	

※従業員数には、期中平均臨時従業員数を含みます。

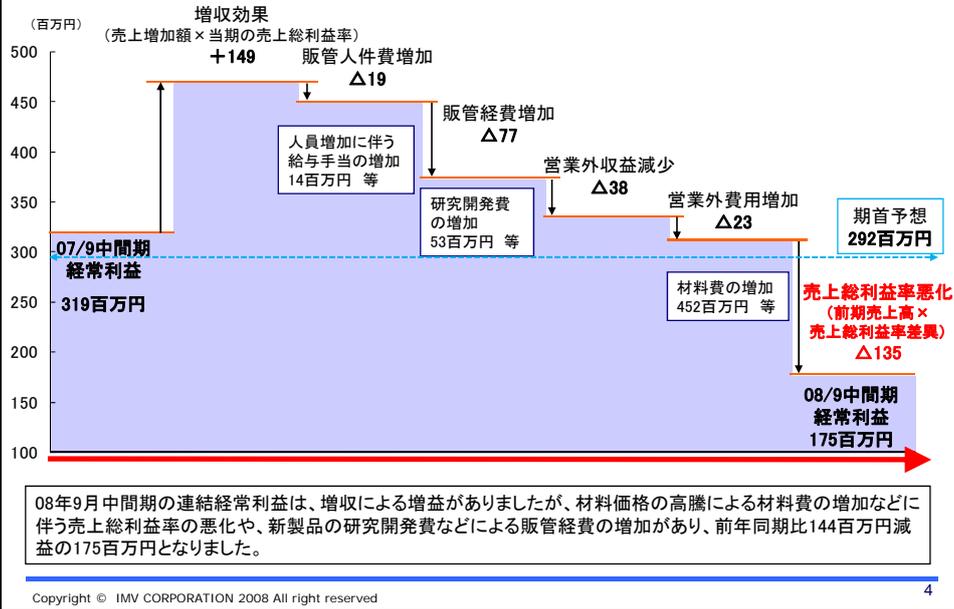
売上高は前年同期比599百万円増収の3,325百万円となりましたが、急激な材料費の高騰などにより売上原価が増加したため、営業利益は前年同期比82百万円減益の164百万円、経常利益は前年同期比144百万円減益の175百万円となりました。また、繰延税金資産を取り崩したことにより、中間純利益は前年同期比116百万円減益の83百万円となりました。

売上増加の内容(連結)



08年9月中間期の連結売上高は、国内外に振動シミュレーションシステムの販売が増加したことや名古屋テストラボの貢献により、前年同期比599百万円増収の3,325百万円となり、中間期としては過去最高の売上高となりました。

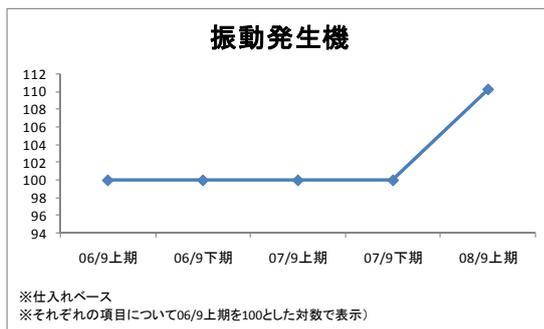
経常利益減少の内容(連結)



コストアップの要因



主要部材価格の上昇によるコストアップ



振動発生機



振動制御器



電力増幅器

振動シミュレーションシステムの構成要素の中でも、特に振動発生機は材料費が上昇いたしました。

技術的難易度に依存するコストアップ

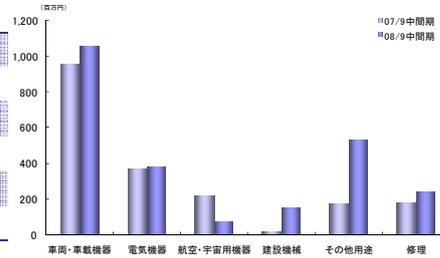
一部の技術的難易度の高い特注大型試験装置で追加材料費が発生いたしました。

振動シミュレーションシステム ～概況～



(単位:百万円)

	08/9 中間期	07/9 中間期	増減額	増減率
車両・車載機器向け	1,057	955	+101	+10.6%
電気機器向け	377	365	+12	+3.4%
航空・宇宙用機器向け	73	215	△142	△65.6%
建設機械向け	146	12	+133	+1088.6%
その他用途向け	528	173	+355	+204.9%
修理	236	181	+55	+30.6%
合計	2,420	1,903	+516	+27.2%



- 大型案件の納入及び海外への販売増加により、売上高は前年同期比516百万円増収の2,420百万円となりました。
- 産業別には、自動車関連業界以外にも建設機械業界、食品業界、公的機関等の幅広い顧客に納入いたしました。
- 材料費の急激な上昇や一部の技術的難易度の高い特注大型試験装置で追加材料費が発生したことに加え、材料費比率が相対的に高い多軸振動シミュレーションシステムの売上割合が増加したことにより、利益面では前年同期を下回る結果となりました。

Copyright © IMV CORPORATION 2008 All right reserved

6

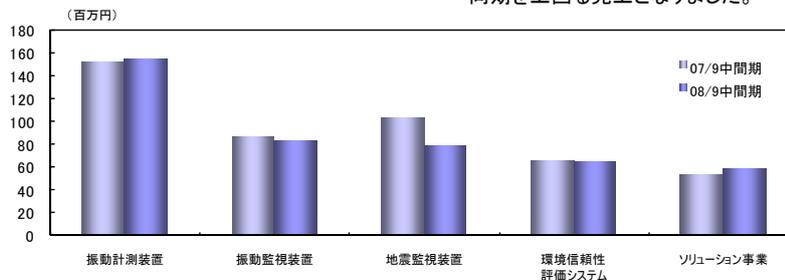
メジャリングシステム ～概況～



(単位:百万円)

	08/9 中間期	07/9 中間期	増減額	増減率
振動計測装置	154	152	+1	+1.1%
振動監視装置	83	87	△3	△4.3%
地震監視装置	78	103	△24	△23.7%
環境信頼性評価システム	65	66	△0	△0.6%
ソリューション事業	59	54	+5	+9.4%
その他・修理	82	73	+9	+12.2%
合計	524	536	△12	△2.4%

- 売上増加を目指していた環境信頼性評価システムが、当初の予定より受注が遅れたことにより前年同期と同水準の売上に留まったほか、前年同期には地震計の大型案件が計上されていた影響もあり、売上高は前年同期比12百万円減収の524百万円となりました。
- 地方公共団体の更新需要が見込まれる計測震度計について、気象庁の認定を取得いたしました。
- ソリューション事業では、振動・騒音の問題解決業務及び計測・解析装置の販売により前年同期を上回る売上となりました。



Copyright © IMV CORPORATION 2008 All right reserved

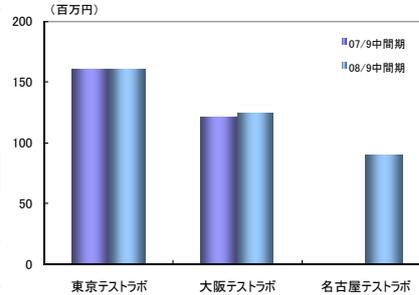
7

テスト&ソリューションサービス ～概況～



(単位:百万円)

	08/9 中間期	07/9 中間期	増減額	増減率
東京テストラボ	161	161	+0	+0.4%
大阪テストラボ	124	121	+3	+2.5%
名古屋テストラボ	90	0	+90	-
子会社外部売上	4	2	+1	+51.5%
合計	380	285	+95	+33.4%



- 2007年9月に開設した名古屋テストラボの貢献により、売上高は前年同期比95百万円増収の380百万円となりました。
- 大阪テストラボにおいて、振動・衝撃試験を専門とする国内試験所としては初めて、ISO/IEC 17025に準拠したIECQ独立試験所の認定を取得いたしました。引き続き東京・名古屋での認定取得を目指してまいります。

Copyright © IMV CORPORATION 2008 All right reserved

8

連結貸借対照表の概要



(単位:百万円)

	08/9中間期末	07/9期末	増減額		08/9中間期末	07/9期末	増減額
流動資産	3,708	3,706	+1	流動負債	3,021	3,302	△280
現金預金	436	218	+218	仕入債務	1,408	1,569	△161
売上債権	2,489	2,263	+225	短期有利子負債	1,102	1,247	△144
棚卸資産	668	951	△282	その他流動負債	510	485	+24
その他流動資産	113	272	△159	固定負債	2,215	2,136	+79
固定資産	3,779	4,071	△291	長期有利子負債	1,888	1,781	+107
有形固定資産	3,230	3,314	△84	その他固定負債	327	355	△27
無形固定資産	85	84	+1	負債合計	5,237	5,438	△201
投資その他資産	463	672	△209	純資産合計	2,250	2,339	△89
資産合計	7,487	7,777	△290	負債・純資産合計	7,487	7,777	△290

資産の部 : 投資有価証券の減少80百万円及び繰延税金資産の減少72百万円により、投資その他資産が209百万円減少したため、固定資産が291百万円減少しました。

負債の部 : 期末受注残高の減少により仕入債務が161百万円減少したため流動負債は280百万円減少しました。短期有利子負債を長期有利子負債へ借り換えたことにより、長期有利子負債が107百万円増加しました。

純資産の部 : 自己株式の取得82百万円等により純資産の部は89百万円減少しました。

Copyright © IMV CORPORATION 2008 All right reserved

9

連結キャッシュフロー計算書の概要



(単位:百万円)

	08/9中間期	07/9中間期	07/9期
① 営業活動によるキャッシュ・フロー	120	211	493
② 投資活動によるキャッシュ・フロー	244	△278	△1,040
①+② フリーキャッシュフロー	364	△66	△547
③ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△203	254	267
④ 現金及び現金等価物に係る換算差額	△0	△0	△0
⑤ 現金及び現金同等物の増加額	160	187	△279
⑥ 現金及び現金同等物期首残高	218	498	498
⑦ 現金及び現金同等物期末残高	379	685	218

営業CF: 税前利益238百万円、減価償却費118百万円及びたな卸資産の減少282百万円等による増加要因が、売上債権の増加225百万円及び仕入債務の減少157百万円等の減少要因を上回ったことにより120百万円の増加となりました。

投資CF: 有形固定資産の売却による収入110百万円及び保険積立金の解約による収入111百万円等による増加要因が、有形固定資産の取得による支出40百万円及び長期性預金の預入による支出57百万円等による減少要因を上回ったことにより244百万円の増加となりました。

財務CF: 短期借入金の純減少額90百万円、長期借入金の返済による支出199百万円及び社債の償還による支出248百万円等の減少要因が、長期借入による収入500百万円等の増加要因を上回ったことにより203百万円の減少となりました。

Copyright © IMV CORPORATION 2008 All right reserved

10

通期業績見通し(連結概要)



(単位:百万円)

	08/9期 修正予想	08/9期 期首予想	期首予想比	07/9期 実績	前期比
売上高	5,910	5,654	+4.5%	5,118	+15.5%
営業利益 (営業利益率)	213 (3.6%)	415 (7.3%)	△48.6%	249 (4.9%)	△14.4%
経常利益 (経常利益率)	250 (4.2%)	424 (7.5%)	△41.0%	333 (6.5%)	△24.9%
当期純利益 (当期利益率)	126 (2.1%)	257 (4.5%)	△50.8%	201 (3.9%)	△37.4%
設備投資	293	293	±0.0%	899	△67.4%
減価償却費	258	260	△0.9%	257	+0.2%
研究開発費	259	213	+21.8%	207	+25.2%
従業員数※	221名	223名	△2名	213名	+8名
1株当たり当期純利益	7.73円	15.25円	△7.52円	11.97円	△4.24円
1株当たり配当金※	4.0円	6.0円	△2.0円	5.0円	△1.0円

※従業員数には、期中平均臨時従業員数を含みます。

※08/9期の配当金につきましては、2008年12月開催予定の定時株主総会において上記配当金を附議する予定です。

Copyright © IMV CORPORATION 2008 All right reserved

11

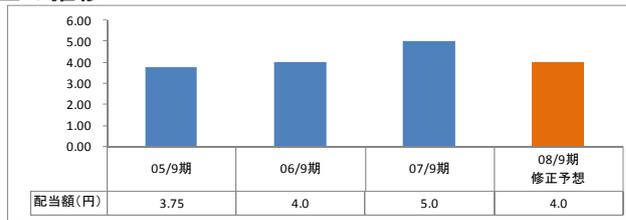
通期業績の見直し(配当)



配当金予想の見直し

	予想1株利益	目標配当性向	1株利益 × 配当性向		安定配当	配当金予想
修正予想	7.73円	40%	3.1円	<	4.0円	4.0円
期首予想	15.25円	40%	6.1円	>	4.0円	6.0円

配当金の推移

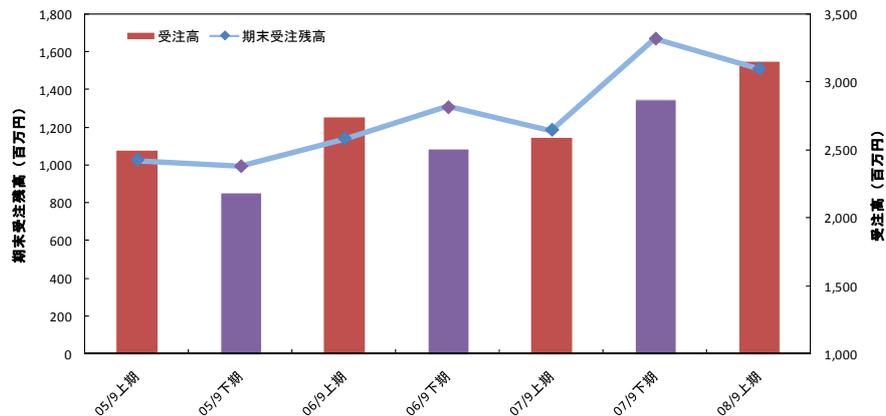


当期の剰余金の配当につきましては、当初1株につき6円と予定しておりましたが、業績予想の見直しに伴い、配当性向目標40%を用いて計算した配当額が安定配当4円を下回る見込みとなったため、誠に遺憾ではございますが、1株につき4円の予定に修正しております。

受注の状況



過去最高の受注実績、中間期末としては過去最高の受注残高



自動車関連業界以外にも幅広い顧客層において受注が好調であったことにより、当期の受注高は3,164百万円(対前年同期比21.8%増)、中間期末受注残高は1,510百万円(対前年同期比27.4%増)となりました。

利益率改善の取り組み



●追加コストの防止とコストダウンへの取り組み

- (1) 設計審査の強化
- (2) ゲストエンジニア制(パートナー企業との技術交流)の促進
- (3) 設計変更の推進(原価企画機能の導入)
- (4) 研究開発の強化

●材料費の急激な高騰への対応

- (1) 受注動向管理と生産計画のリアルタイム連動
- (2) 海外調達を含む新規パートナー開拓

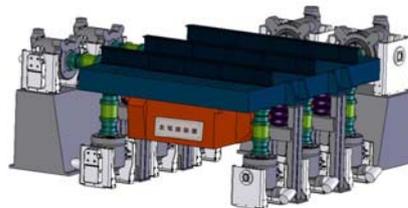
事業計画の進捗



1. 自社株50万株の取得実施:M&Aなどにも活用
2. 名古屋テストラボ順調に業績寄与
3. 鉄道車両機器用テストラボの建設決定。09年2月稼働予定



新試験棟完成イメージ



鉄道車両用機器向け
吊り下げ式6自由度振動試験装置

事業計画の進捗



4. 特定用途に限定した電気サーボモーター式振動試験装置の発売開始



5. イオンマイグレーションテスターに新機種投入



誘電正接+絶縁抵抗同時測定
マイグレーションテスター



高電圧印加
マイグレーションテスター



ハイサイド電流計測方式
マイグレーションテスター



高温恒湿対応誘電率ロガー

事業計画の進捗



6. 地震計に新機種投入(気象庁認定)



気象庁認定 計測震度計

7. 海外戦略:

- ・ロシアOSTEC社と販売基本契約締結(初年度1億円)
- ・エスベック・エスベック上海と中国における販売契約締結
- ・テストラボの海外展開に関し、現地企業との連携を計画中
- ・CEマーキングの適合宣言を実施予定

人と物の安全を支える技術



工業製品の動向

性能・機能を維持し
製品寿命を全うする

電子化・大容量化
高度化・効率化
軽量化・集積化

安全性向上
環境に優しい製品
人に優しい製品

試験・計測
への要求

計測・試験の高度化		
計測	実環境の確実な計測 正確な分析	多チャンネル化・高容量化 コンパクト化・リアルタイム化
試験	実環境の忠実な再現 効率的な試験	複合化・多自由度化・簡易化 高電圧化・高効率化

計測・試験の
最新技術を
開発/提供

市場の要求に応える製品(計測分野)



計測震度計

- 気象庁認定品として新たにリリース
- 近年の更新需要にジャストフィット

SW-92

New!

販売開始



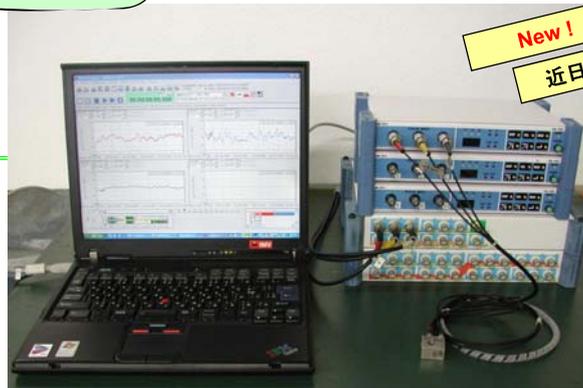
市場の要求に応える製品(計測分野)



データ収録解析システム

- 多チャンネル化(128ch)を実現すると共に、収録・解析ソフトウェアを充実させ、フィールドでの問題解決に最適なシステムを提供

Wave Stocker III



Copyright © IMV CORPORATION 2008 All right reserved

20

市場の要求に応える製品(計測分野)



高電圧印加マイグレーションテスター

- カーエレクトロニクス業界の強い要望に応え、1000V仕様を実現
- 他のMIGシリーズと共に業界のトップランナーへ

Hip-1000/n



New!

販売開始

Copyright © IMV CORPORATION 2008 All right reserved

21

市場の要求に応える製品(試験分野)



複合環境試験装置

- 実環境(振動・温度・湿度・散水等)の再現下で、試験物の動作状態を検証する試験需要が拡大
- 恒温槽内製化によるコストダウンとリードタイム短縮を実現



市場の要求に応える製品(試験分野)



多点・多軸振動試験装置

- フィールドの振動を多次元で実現
- 試験物の故障再現と試験時間短縮効果で採用率増加



市場の要求に応える製品(試験分野)



電気サーボモーター式振動試験装置

- 簡易用途の振動試験装置として電気サーボモーターを採用
- コストパフォーマンスの高さで市場拡大



明日に向けての要素開発



鉄道車両用機器の振動試験技術の開発

システムのインテリジェント化技術の開発

輸送環境記録計の開発

非ガウス性ランダム試験の研究

携帯型振動計プラットフォームの開発

非線形系制御の研究

無線化技術の研究

事業環境の現状と今後



Strength	Opportunity
<ul style="list-style-type: none"> •業界No1シェア •世界をリードする振動技術 •製品ブランド力 	<ul style="list-style-type: none"> •環境・安全意識の向上 •新興国の成長 •鉄道車両向け振動試験規格の改定
Weakness	Threat
<ul style="list-style-type: none"> •高コスト体質化 •低い海外売上比率 •技術領域の狭さ 	<ul style="list-style-type: none"> •素材価格の高騰による仕入れコストの上昇 •異業種からの参入 •安価な中国製品の進出の可能性

Copyright © IMV CORPORATION 2008 All right reserved

26

ありがとうございました

代表取締役会長 小嶋 成夫

代表取締役社長 岡本 二郎

執行役員(技術・開発・生産担当) 白星 政和

お問合せ先

IR窓口 経営戦略企画部・IR担当 大和

TEL:06-6478-2565 FAX:06-6478-2567

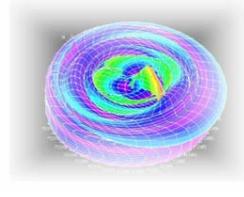
E-MAIL: imvir@imv.co.jp <http://www.imv.co.jp>

○免責事項

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保障するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。



IMV CORPORATION

ご参考資料



会社概要 (2008年9月中間期:連結)



社 名 : IMV株式会社 (英文社名:IMV CORPORATION)

証券コード : 7760 (ジャスダック証券取引所/精密機器)

設 立 : 1957年4月17日

事業概要 : 振動シミュレーションシステム及びメジャリングシステムの製造・販売
及びテスト&ソリューションサービスの提供

代表者 : 代表取締役会長 小嶋 成夫
代表取締役社長 岡本 二郎

売上高 : 3,325百万円 (ご参考)2007年9月期:5,118百万円

経常利益 : 164百万円 (ご参考)2007年9月期:333百万円

資本金 : 464百万円 (ご参考)2007年9月期:464百万円

従業員数 : 216人 (58名の期中平均臨時従業員含む)
(ご参考)2007年9月期:213人 (56名の期中平均臨時従業員含む)

本社所在地 : 大阪市西淀川区竹島2-6-10
(本社/R&Dセンター/大阪工場/東京工場/東京各営業所/海外事業部
/大阪営業所/名古屋営業所/東京テストラボ/大阪テストラボ/名古屋テストラボ)

沿革 ～会社更生法からの再建



- 1957年 4月 株式会社国際機械振動研究所を設立
- 1974年 10月 会社更生法を大阪地裁へ申請
小嶋成夫(現会長)が更生管財人として自力再建を開始
- 1985年 7月 残3回の弁済計画を繰り上げ、会社更生手続きを終結
- 1994年 9月 日東精機(株)(現連結子会社)を100%子会社化
- 1998年 4月 国内初のテストラボ専用施設を完成(東京工場敷地内)
- 2005年 5月 本社・大阪工場を大阪市西淀川区に移転・統合
- 2005年 6月 大阪テストラボ開設
- 2005年 7月 ジャスダック証券取引所に上場
- 2007年 2月 大阪にショールーム開設
- 2007年 4月 会社設立50周年
- 2007年 9月 名古屋テストラボ開設

Copyright © IMV CORPORATION 2008 All right reserved

30

IMVの3つの事業



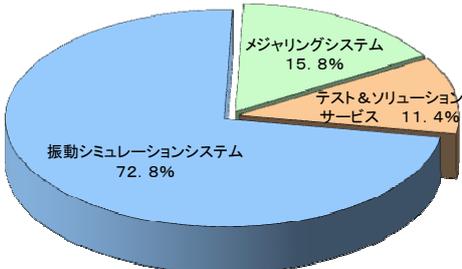
振動を再現する 振動シミュレーションシステム

振動環境を再現し、振動に対する耐振性及び改良の必要性等を評価、判定するための試験装置です。振動以外の環境因子との複合試験にも用途は拡大しています。動電式システムで国内シェアNo1に位置します。



振動を計測する メジャリングシステム

工業製品、設備機械、建築物などに発生している振動を監視し、データとして収録後、解析処理する装置です。設備の劣化診断、地震災害時の設備緊急制御等に用いられます。充実の製品ラインナップで顧客ニーズに応えています。



(2008年9月中間期 連結)

振動問題を解決する テスト&ソリューションサービス

設備や試験ノウハウを持たない顧客からの要請を受け、振動試験の受託やコンサルティング等を実施しています。様々な顧客ニーズの取り込みを図っており、サイトの増設、サービスメニューの拡大に取り組んでいる成長分野です。



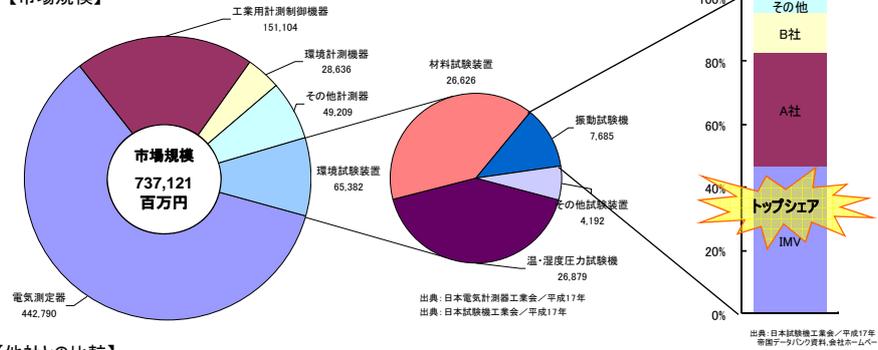
Copyright © IMV CORPORATION 2008 All right reserved

31

マーケットの状況 ~国内トップシェア~



【市場規模】



【他社との比較】

	株式	得意分野	振動シミュレーションシステム構成要素	テストラボ	計測関連
	上場	フルラインナップ	全て自社製	3ヶ所	振動計測・監視装置、地震監視装置、MIG
A社	未上場	単軸・複合	他社より一部購入	1ヶ所	振動計(一部)
B社	未上場	多軸	他社より一部購入	なし	振動計(一部)

出典: 帝國データバンク資料・会社ホームページ、その他当社調査による

業績推移(連結)

